

美德の言語で作り上げていく美しい仁川

朴玉鉉(仁荷大学校)

1. 初めに

2000年代から始まった韓国の多文化の社会化は深化している。特に仁川市は多文化の社会化において一丁目一番地といえる。例えば、2020年4月基準で仁川市多文化家庭在学生数は8千852人であり、これは仁川市全体の学生(3万1千138人)の2.9%に相当する。つまり、仁川地域の537校のうち92.2%(495校)に多文化学生が分布している。また、仁川地域の多文化家庭の学生増加率は11.9%で、全国平均(7.4%)より高い。結論として、全国17の市、道の中で多文化家庭の学生増加率において1位を占めている(中部日報、2021)。このように地域社会が持つ教育環境的背景にもかかわらず、仁川市多文化家庭の子どもたちの教育及び支援に関する研究は不足している状況だ。

母親に韓国語を直接学びにくい多文化家庭の子供は韓国語学習で助けが必要だ。例えば、韓国語ベースの教育過程で、10%程度の国内で生まれた多文化家庭の子供は、学習不振などの学校不適応が現れている(ソヒョク、2017)。特に多文化家庭の子供は韓国語のコミュニケーションで大きな困難を持っているが、一部のカリキュラムなどの文語では専門用語や文法的表現が多く、困難を経験している。これにより、多文化家庭の子供の半数ほどは、正常な学習参加がほとんど不可能な水準に置かれている(チョン・ジェヨン・キム・ソンジョン、2021)。特に小学生の多文化学生の学習不振は中学校につながるが、中途入国の中学生の学習欠損の程度は中途入国の小学生より大きくなる。このような文解力発達の遅滞は、言語を媒介に形成される抽象的思考能力の形成と概念化能力発達の遅滞につながる(キム・オクソン、2010)。

2008年に多文化家族支援法が制定されたことにより、女性家族部は地域多文化家族支援センター(以下、家族センター)を通して結婚移住女性と家族に韓国語教育、父母教育、子どもの生活指導などを提供している。特に仁川市地域の9つの家族センターのうち桂陽区の家族センターは、全国の試験機関として選定されるなど多文化家庭を支援する上で持続的な努力をしている。本事業では、訪問教育指導士(以下、指導士)は、多文化家庭を直接訪問し、1:1の学生に合わせた授業を進めるにつれ、多文化家庭の子供の学習や生活指導はもちろん、心理情緒の安定に寄与している。また、指導士は韓国移住5年以内の結婚移住女性と子供に韓国語教育、父母教育、子どもの生活指導を担当し、韓国語でコミュニケーションをすること、多文化家族の韓国語教育などにおいて指導士の役割は大きい。

また、2013年から各市・道教育庁の学習総合クリニックセンターは、認知、情緒、行動などで難しさがある小学校1年生から高校2年生までの学生のための1:1の学生に合わせた学習相談を行っている。まず対象群は学習問題と問題行動を持った学生だ。学習問題とは教科学習不振だけを意味しないが、基礎学習不振、ハングル未解読などが優先視される。特に多文化移住民が多い地域学習クリニックセンターには韓国家庭の学生はもちろん、多文化家庭学生も依頼されている。このような学習総合クリニックセンターは仁川市教育庁も運営している(京仁毎日、2021)。

青少年期はある社会の構成員としての知識、機能、態度を身につけ、構成員としてのアイデンティティを形成する時期であるので、韓国に居住する青少年にとって韓国語教育は重要だ。特に韓国語のコミュニケーションで正しく、きれいな言葉は重要だ。例えば、キム・ヨンスン、チェ・スンウン、キム・ジョンヒ、ファン・ヘヨン、パク・ボンス（2019）によると、多文化家族は家族会議でお互いを尊敬語を使おうという規則を定め、これを実行したが、荒い性格だった子供が尊敬語を使い、肯定的に性格が変化することを経験した。このように「言葉は力が強い。」これに美德の言語を活用した韓国語教育を提案する。これを通じて仁川市は美しい多文化社会を作ることができると思う。特に仁川は韓国多文化社会化一丁目一番地であるため、本プロジェクトが全国の多文化家庭に与える影響はさらに大きいと期待される。

また、国内・外の韓国語学習者にハングル会得水準に合わせた肯定的な韓国語学習素材の開発と提示を提案する。特に韓国の国家地位が高まり、世界中の韓国語学習者の需要が爆発的に増加している状況で、韓国語学習者に肯定的な韓国語素材を開発して提示することは重要である。これはまさに韓国を肯定的に世界に知らせ、先進国としての国家イメージを構築するのに大きな助けになると期待されるからだ。このような認識をもとにした本研究の内容は「美德の言語を活用した多文化家庭の子どもの韓国語学習はどうか？」というものだ。

2. 理論的背景

2.1 韓国語教育の原理

ハングルは朝鮮初期に作られた文字で科学性と体系性に優れ、誰でも簡単に学び使いやすい文字だ。一方、ハングルは文字体系が科学的に優れており、外国人学習者がインターネット学習でハングルを学びハングルを読むことを見ることができる（ハン・ミョンスク、2019）。これにハングル会得指導において単に文字を読むことと文解力を備えたものとは区分しなければならない。

ハングル会得教育とは、ハングルを学ぶ学習者がハングル構造の体系を身につけ、ハングルを上手に使えるように助けることだ。学校でのハングル会得教育は、学習者がハングルを身につけてスムーズに使えるように指導するものと言える（キム・ドナム、2003）。つまり韓国語基盤の教育過程でハングルを会得しなければどんな学習も成し遂げることが難しいので、ハングルの会得は基礎学習能力の根幹である。一方、ユネスコは「文解力を様々な内容に対する文章と出版物を使って定義、理解、解釈、創作、コミュニケーション、計算などをする能力」と定義した（キム・ユンジョン、2021）。また、文解力は、文字を会得する初期文解を含む基礎的レベルの読み書き能力である基礎文解と日常生活および学習、職業生活に必要な事実に読解、推論的読解、基礎的な批判的読解などの高等思考力を必要とする機能文解を言う（イ・ギョンファ、2019）

ハングル会得は単に文章を読み書きできる状態ではなく、特定の単語の意味を知って読み書きできる状態を意味する。文字の意味を理解して読み、意味を文字で表現して書くこのような認知的操作過程で語彙は核心的な位相を持つ。これは、ハングルの会得レベルを決定するものが語彙であることを意味する。したがって、言語を学習する上で、文解力向上のために最も優先すべきことは語彙であろう（イ・ギョンナム他、2018）。このような認識に基づき、小学低学年の教師らは初期文字指導内容のうち補完する内容として語彙指導を最も多く選んだ（イ・ギョンファ、ジョン・ジェウン、2007）。

一方、ハングルの会得のための教育過程でどの語彙を選定して指導するかについての研究はほとんど行われていない（イ・ギョンナム、パク・ヘリム、イ・キョンファ、2018）。

語彙力の前提は意味を表す単語である。一部のハングル会得のための基礎語彙に無意味な単語を含めて、会得、流暢性を練習するのに活用することもある。しかし、基礎語彙は受容語彙に焦点があるため、意味の理解が可能な意味語でなければならない。読みとは、単に文字を解読するのではなく、意味を構成する非常に積極的な思考活動が必要なため（イ・ギョンファ、ジョン・ジェウン、2007）、ハングル会得の素材として形態的特徴よりは意味論的な特徴に焦点を当て、抽象的な語彙より具体的な語彙を基礎語彙として考慮しなければならない（イ・ギョンナム他、2018）。このような認識に基づいて、本研究は多文化家庭の子供のための韓国語学習のための素材として第一に、意味単語を選定する。第二に、高頻度単語から低頻度単語に進む。第三に、語彙が使用される状況と文脈を提示し、学習者の対応する語彙の理解を高める。

2.2 バーチャーズプロジェクトの理解

バーチャーズ (virtues) とは美德を意味します。virtue は、力、能力、威力、エネルギーを意味するラテン語 virtus に由来する (Zookin, 2012)。美德は人性を構成する因子であるが、人性は人間がどんな対価を払ってでも正しいことをしたいという内的動機をいう。人性という名の鉱山に存在する最高の宝石を美德というが、これはすべての人間が原石の形で持って生まれる本来の資質です。したがって、バーチャーズプロジェクトは、美德を人類社会に貫通する普遍的価値として、宗教的でも世俗的でも、すべての伝統において、美德が人生の肯定的な意味と直結している精神的価値だと教えている。例えば、今日のように、多様な文明が共存する地球村時代に共存するための橋脚であり、多文化社会の公用語は美德だと言える（韓国バーチャーズプロジェクト、2013）。

バーチャーズプロジェクトは 1970 年代半ば、北米の精神科医リンダ・カバリン・ポポフ (Linda Kavelin Popov) によって人性教育プログラムが開発され、その後 1988 年リンダ夫人は小児精神科医師であり比較宗教学者である夫、ダンポポフ (Dan Pop) とウォルト・ディズニー社の映像監督である弟ジョン・カバリン (John Kavelin) と共同でバーチャーズプロジェクト (The Virtues Project) という人性教育プログラムを完成させたが（韓国バーチャーズプロジェクト、2013）、これは現在 91 カ国で適用されている（チョ・オクジン、2012）。

上の 3 人は、人類の多様な精神文化と宗教の伝統を研究した結果、そのすべての教えを貫く普遍的な価値があることを確認した。それはまさに美德だった。また、彼らは美德の研磨が人間の精神の本質であり、人生の本当の意味であり、目的として認識されていることを確認した。これに彼らは人類社会の多様な精神的遺産に共通して登場する 300 以上の美德の中から 52¹⁾の美德を選別した。これを活用し、現代人の人生の中で内面の美德を効果的に目覚めさせ強化することができる 5 つの戦略を樹立し、関連プログラムを開発した。

¹⁾バーチャーズプロジェクトが選定した 52 の美德は次のとおりだ。感謝、決意、謙虚、寛容、勤勉、喜び、機知、忍耐、寛大さ、助け、名誉、目的意識、信頼性、配慮、奉仕、愛、思いやり、優しさ、所思、信頼、信用、情熱、礼儀、勇気、許し、友情、柔軟性、理想、理解、忍耐、認識、自律、節度、整頓、正義、正直、尊重、中庸、真実、創意性、責任感、清潔、超然、忠実、親切、卓越さ、平穏さ、一貫性、献身、協働、団結、確信

バーチャーズプロジェクトの5つの戦略を紹介すると、次のようになる。まず、美德の言葉で話さない (Speak the Language of the Virtues)。言語は私たちの人性を決定する力を持っているため、言語はインスピレーションの源になることも、士気をそぐ原因になることもある。したがって、美德の言語で話す戦略は、恥や不満の代わりに責任感と自尊心が成長することを助けることになり、お互いの内面で最善の道を引き出す迎え水になることが可能だ。第二に、学びの瞬間を認識しない (Recognize Teachable Moments)。日常で遭遇する挑戦の瞬間を美德を磨く機会として認識し、その中で人生の教訓を探し深く理解する機会を迎えることを意味する。第三に、美德の柵を打ちなさい (Set Clear Boundaries)。尊重、平和、正義に基づいて立てられた明確な規範と原則の境界線は、より平和で安全な空間を造成してくれる柵となる。したがって、個人または組織内の人間関係において柵が必要だ。第四に、精神的価値を尊重しなさい (Honor the Spirit)。人間の高貴さと人間社会の精神的価値を尊重するよう奨励する戦略だ。第五に、精神的同伴を提供しなさい (Offer Spiritual Companionship)。同伴は相手を押しやり引いたりするのではなく、一緒にいてあげることだ。この戦略は、超然と認定の美德を動員する傾聴技法を通じて問題解決を助ける相談技法の一つである (チョ・オクジン、2012; 韓国バーチャーズプロジェクト、2013)。

キム・ジョン、クァク・ノイ (2016) はバーチャーズを活用した人性教育プログラムを通じて児童の自我弾力性と同年代の関係に及ぼす影響を調べたが、児童は自身と他人の美德を発見し錬磨する方法を学ぶことで個人の次元で弾力性を修養することができ、共同体次元では、同年代関係の修養ができた。また、チョ・オクジン (2012) はバーチャーズプロジェクトを通じて肯定的な自尊心の新しい交情について調べたが、12歳の研究参加者らは自己主導的に成功した未来の姿を夢見て希望を持てるようにする肯定的な自尊心を吹き込むようになった。また、永同教育支援庁 (2014)、世宗市青少年活動振興センター (2016)、公州教育支援庁 (2019) などはこのような認識をもとに韓国バーチャーズプロジェクトを活用した多様なプログラムを運営している。

一方、美德の言語を活用した韓国語学習において、美德 (virtues) に該当する語彙は抽象名詞に該当するため、その語彙が使われる状況と文脈が一緒に提示される必要がある。一方、韓国バーチャーズプロジェクトが提供するバーチャーズカード²やバーチャーズ下敷きは、その美德を説明してはいるが、その美德が使われる状況や文脈を提示する上で微弱な部分がある。これに、本研究は研究参加者の目の高さに合わせて美德が使われる状況などを説明している価値辞典1 (チェ・インソン、2005)、価値辞典2 (チェ・インソン、2015) が提示する美德を使用する。

3. 研究方法

本研究は、美德の言語を活用した韓国語学習を設計し、実行し、その結果を提示することを目的とする。これにより、初期の韓国語学習者たちが正しく、美しい韓国語を習得し、互いにコミュニケーションを取り、健康で美しい地域社会を作っていくことができる基礎資料を提示することができると期待する。

² 韓国バーチャーズプロジェクトで提供するバーチャーズカードは合計 52 の美德を提示するが、カードの表には韓国バーチャーズプロジェクトの提示する 52 の美德のうちの 1 つの意味が、裏面にはその美德の活用方法と確約を紹介している。一方、バーチャーズカードセットには、カード活用法を紹介する 1 枚のカードも提示されている。

本研究目的のために、研究参加者は韓国語学習を始めた小学 1-2 年生の 4 人を選定する。特に、彼らは韓国人家庭の子供 2 人と多文化家庭の子供 2 人内外で構成し、美德の言語を活用した韓国語学習において彼らに現れる共通点と相違点を見ていこうとする。このための研究参加者の条件は、まず、美德の言語を活用した韓国語学習に共感する。第二に、家族センターまたは学習クリニックセンターに依頼される国内出生韓国人家庭/多文化家庭の小学校・低学年の子供または中途入国青少年である。第三に、研究参加者の自発的参加意思と家庭内学習支援が可能でなければならない。

この研究のための(韓)国語学習プログラムは、合計 10 回(1 回あたり 50 分)で構成されている。まず、ハングルのレベル評価と依頼書に基づいて学習者のハングル会得レベルをチェックし、プログラムの始点を探そうとする。また、研究者の現場経験を反映して、「夏休みハングル・ぱっちり」に依頼される学習者のハングル会得レベルに合った韓国語学習プログラムを設計する予定だ。

本研究では、美德の言語を活用した韓国語学習に対する効果性を検証するため、ハングルのレベル評価の事前・事後検査を実施する。ハングル会得レベル診断ツール(キム・ヨンス、2017)は、韓国教育課程評価院で学校の現場の小学校 1 年生の担任教師に学生のハングル会得に関する質的な情報を提供し、ハングル未会得学生の補足指導(「きらきらハングル」プログラム活用)を助けるために作られた。そこで、本研究の主教材が「きらきらハングル」であるので、本研究に依頼される小学低学年の学習者のハングル会得程度を調べるためにハングル会得レベル診断ツールを使用しようとする。

4. 今後の課題

本研究の基盤である「バーチャーズプロジェクト」は、1993 年国連事務局から「すべての文化圏で活用できる世界的な人性教育プログラムの典型」という絶賛とともに世界的に進行中であり、まず、美德の言語を活用した韓国語教育に関する研究結果の適用が必要である。第二に、美德の言語を活用した韓国語教育に続き、読解理解はもちろん、心理情緒プログラムなど多様な融合のための後続の研究が必要だ。第三に、本プログラムの融合において韓国を越えて日本、中国、ベトナムなどへの拡張が必要である。一方、本研究を設計、施行し、その結果を提示することが必要であるが、本研究は 2022 年夏休み中に実施される予定であるため、本発表に合わせて意味のある結果が導出され、貴重な資料が共有できることを期待する。(研究状況に応じて調整の可能性有り。)

参考文献

- 경인매일(2021) 인천시교육청, 학습종합클리닉센터로 기초학력 지원 강화, 2021.4.9./검색일:2022.7.4.
- 김영수(2017) 초등학교 저학년용 한글 해득 수준 진단 도구, 경상북도교육청·한국교육과정평가원. 연구자료 ORM2017-36-1 찬찬한글(진단도구).pdf/ 검색일:2022.5.21.
- 김영순·최승은·김정희·황해영·박봉수(2019)「동남아시아계 이주민의 생활세계 생애담 연구」북코리아
- 김옥선(2010)「다문화사회와 이중언어교육」인문학연구
- 김윤정(2021)「공부 머리 만드는 초등 문해력 수업」믹스커피
- 김지영·곽노의(2016)「버추(Virtues) 활용 인성교육 프로그램이 아동의 자아탄력성 및 또래관계에 미치는 영향」어린이미디어연구
- 박옥현(2022)「모국 언어문화를 병용한 중도입국 청소년의 문해력 지도」문화와 융합
- 서혁(2017)「학교 교육과 한국어언어문화교육의 쟁점과 과제」한국언어문화학

이경남·박혜림·이경화(2018) 「한글해득을 위한 기초 어휘 선정 연구」 청람어문교육

이경화(2006) 「균형적 기초문식성 교육 내용 연구」 국어교육

이경화(2019) 「기초문해력과 읽기 부진 지도」 청람어문교육

이경화·전제웅(2007) 「국어교과서 개발을 위한 기초문식성 지도 실태와 인식조사」 학습자중심교과교육연구

정재영·김선정(2021) 「중도입국 청소년 대상 한국어와 사회 교과 통합 교육방안」 호모미그란스

조옥진(2012) 「버츠프로젝트를 통한 긍정적 자존감 신장」 미래교육연구

중부일보(2021) 인천 다문화가정 자녀 교육개선 정책 연구회 "인천 지역 다문화가정 청소년의 행복을 위해"
<인천종합 <인천 <기사본문 - 중부일보 - 경기·인천의 든든한 친구 (joongboo.com) 2021.7.1./
 검색일:2022.7.8.

채인선(2005) 「아름다운 가치사전 1」 한울림어린이

채인선(2015) 「아름다운 가치사전 2」 한울림어린이

(翻訳責任者：関一美)